

未来につながる エコ・ワード

ニュースで耳にする環境「ワード」。
明日への行動につなげてみよう。

問 環境政策課／Tel674-7486

問題 「スマートムーブ」とは、どんな取り組みのこと？

- A 徒歩や自転車を積極的に利用して、運動不足を解消する取り組み
- B 二酸化炭素の排出量が少ない移動手段を選択して、地球温暖化対策に貢献する取り組み
- C メタバース(仮想空間)で買い物などをして、移動をなくそうという取り組み

答え B 二酸化炭素の排出量が少ない移動手段を選択して、地球温暖化対策に貢献する取り組み

解説

スマートムーブ(smart move)とは、人やモノの「移動」を「エコ」にする取り組みのことです。通学・通勤や買い物、レジャーなど生活に欠かせない日々の移動手段を見直し、二酸化炭素の排出量のより少ない方法を選択することで、地球温暖化への対策に貢献することができます。

自動車使用を見直して

日常生活から排出される二酸化炭素排出量のうち「自動車」からの排出量は、全体の2割を占めています。

す。自動車での移動手段を見直すだけで、二酸化炭素の排出抑制や地球温暖化対策に大きな効果を示します。

自動車を使う頻度を減らし、徒歩や自転車を積極的に利用することは、エコだけでなく、健康づくりや運動不足の解消につながるほか、お財布にもやさしい取り組みです。



私たちにできること

- 近い距離の移動は、徒歩や自転車を利用する
 - 長距離移動は、電車やバスなどの公共交通機関を利用する
 - 自動車に乗るときはエコドライブを心掛ける
 - 「カーシェアリング[※]」という選択肢を持ち、車の利用を必要最低限にする
- ※近隣の人と同じ車を共同所有し、必要なときだけ使う取り組み

たかつき歴史アラカルト⑩

高槻城二の丸跡の発掘調査

3/18(土)にオープンする高槻城公園芸術文化劇場が建つ場所は、江戸時代の高槻城二の丸跡にあたります。市では整備工事に先立ち、二の丸を囲む石垣や土居・門の部分を保存しながら、発掘調査を行いました。その結果、戦国から江戸時代の3時期にわたる城の堀を検出し、位置や規模・構造を変えて掘削・埋戻しが繰り返されたことが明らかになりました。

最も古い堀は、戦国時代に直線的な幅約7m、深さ2.5mの堀が掘られていました。

次に、1つ目の堀を埋めてから幅16m、深さ4mの何度も屈曲する堀が掘られました。この堀は和

田惟政・高山右近の時代から江戸時代初めまでの間に位置付けられます。堀が屈曲する「横矢」がわかり、上斜面には数段の石垣が築かれました。堀底には四角形の穴が連続して敷設された「堀障子」が築かれていました。いずれも堀を簡単に渡らせない防御上の工夫です。

江戸時代初めには2つ目の堀を埋めた上に二の丸御殿が築かれ、その北側に以前の堀を拡張して内堀が掘られます。幅18m以上、深さ4m以上あり、門や櫓(やぐら)などの要所には堀底から高石垣が築き上げられました。幅・深さとともに高石垣の構築によって最大

規模の堀が完成しました。

この変遷は、三好・織田・豊臣・徳川と天下が変わって戦乱が続いた当時、防御力を高めるために高槻城で大規模な改修が何度も行われたことを物語っています。

(埋蔵文化財調査センター)



高槻城二の丸跡で検出した堀